

衛環研マガジン

編集 山梨県衛生環境研究所 〒400-0027 山梨県甲府市富士見 1-7-31
発行 TEL 055-253-6721 (代表) FAX 055-253-5637 HP <https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/>

令和 8 年度第 1 号

- ・今あらためて知っておきたい「麻しん（はしか）」のこと（微生物部）
- ・大気汚染物質の光化学オキシダントの環境基準が改正されました（環境科学部）
- ・ミネラルウォーターの PFOS・PFOA 検査ははじめました（生活科学部）

今あらためて知っておきたい「麻しん（はしか）」のこと

最近、ニュースなどで「麻しん（はしか）」という言葉を目にする機会が増えています。麻しんワクチン接種の普及によって患者数は大きく減少しましたが、2025 年から 2026 年にかけて、国内で患者報告数が増加しています。海外から持ち込まれた感染をきっかけに、学校や医療機関などで集団感染が発生した事例も報告されています。

麻しんは「昔の病気」と思われがちですが、現在でも注意が必要な感染症です。今回は、麻しんの特徴や予防方法について紹介します。

麻しんってどんな病気？

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる感染症です。感染すると約 10～12 日の潜伏期間の後に、発熱、せき、鼻水、目の充血など風邪によく似た症状が現れます。その後、一時的に熱が下がった後で再び 39～40℃ の高熱が出現し、顔や首から全身へ赤い発しんが広がります。また、口の中の頬の内側に白い小さな斑点（コプリック斑）が見られることもあります。症状は 1 週間程度続きますが、回復までにはさらに時間がかかることもあります。

麻しんが特に注意される理由は、その極めて強い感染力にあります。感染経路には飛沫感染、接触感染、空気感染があります。特に空気感染を起こすため、感染者と同じ空間に短時間いただけでも感染する可能性があります。麻しんの感染力はインフルエンザや新型コロナウイルス感染症よりも強いとされ、免疫を持たない人が感染者と接触すると高い確率で感染するといわれています。さらに、発症する数日前から周囲へ感染させる可能性があるため、本人が麻しんと気付かないうちに職場や学校、家庭内で感染が広がることがあります。

重症化することもある

麻しんは、決して軽い病気ではありません。合併症として肺炎、中耳炎、気管支炎などを起こすことがあり、特に肺炎は重症化の原因となります。また、まれに脳炎を発症することがあり、後遺症が残る場合もあります。

特に注意が必要なのは乳幼児、妊婦、高齢者、免疫機能が低下している人です。妊婦が感染すると、流産や早産のリスクが高まることも報告されています。



さらに、非常にまれではありますが、感染後数年から十数年を経て「SSPE（亜急性硬化性全脳炎）」という重い神経疾患を発症することがあります。SSPE は進行性の病気であり、麻しんの重大な合併症の一つとして知られています。



最近の流行状況

日本は2015年にWHO（世界保健機関）から「麻しん排除状態」と認定されました。しかし、海外では依然として流行が続いており、海外渡航者などを通じて国内へ持ち込まれるケースが増えています。

2025年には、関東や関西を中心に患者報告数が増加し、海外で感染したと考えられる事例も多く確認されました。さらに2026年には、東京都や愛知県などで集団感染が報告され、学校や医療機関で感染が広がったケースもありました。

人の移動が活発になった現在では、「海外で流行している感染症が国内に入ってくる」ということを意識する必要があります。

予防で最も大切なのはワクチン

麻しん予防で最も有効なのはMRワクチン（麻しん・風しん混合ワクチン）の接種です。

日本では、1歳時（第1期）と小学校入学前の1年間（第2期）の2回接種が定期接種として行われています。2回接種することで高い予防効果が得られ、感染予防だけでなく重症化予防にもつながります。

また近年は、20～30代を中心に接種歴が不十分な人の感染も報告されています。年代によって接種制度が異なるため、自分が何回接種したか分からない人も少なくありません。この機会に母子健康手帳などで、自分や家族の接種歴を確認しておくとういでしょう。

具合が悪いときはどうする？

高熱や発しんが出た場合、「風邪かな」と自己判断せず、早めに医療機関へ相談しましょう。

ただし、麻しんの疑いがある場合、直接医療機関へ行くと周囲へ感染を広げてしまう可能性があります。受診前には必ず電話で相談し、医療機関の指示に従うことが大切です。

おわりに

麻しんは非常に感染力が強く、ときに重い合併症を引き起こす感染症です。一方で、ワクチンによって高い確率で予防することができます。

世界では現在も流行が続いており、日本国内でも患者報告がみられています。自分自身だけでなく、家族や地域社会を守るためにも、正しい知識を持ち、ワクチン接種歴の確認や体調管理を心がけましょう。

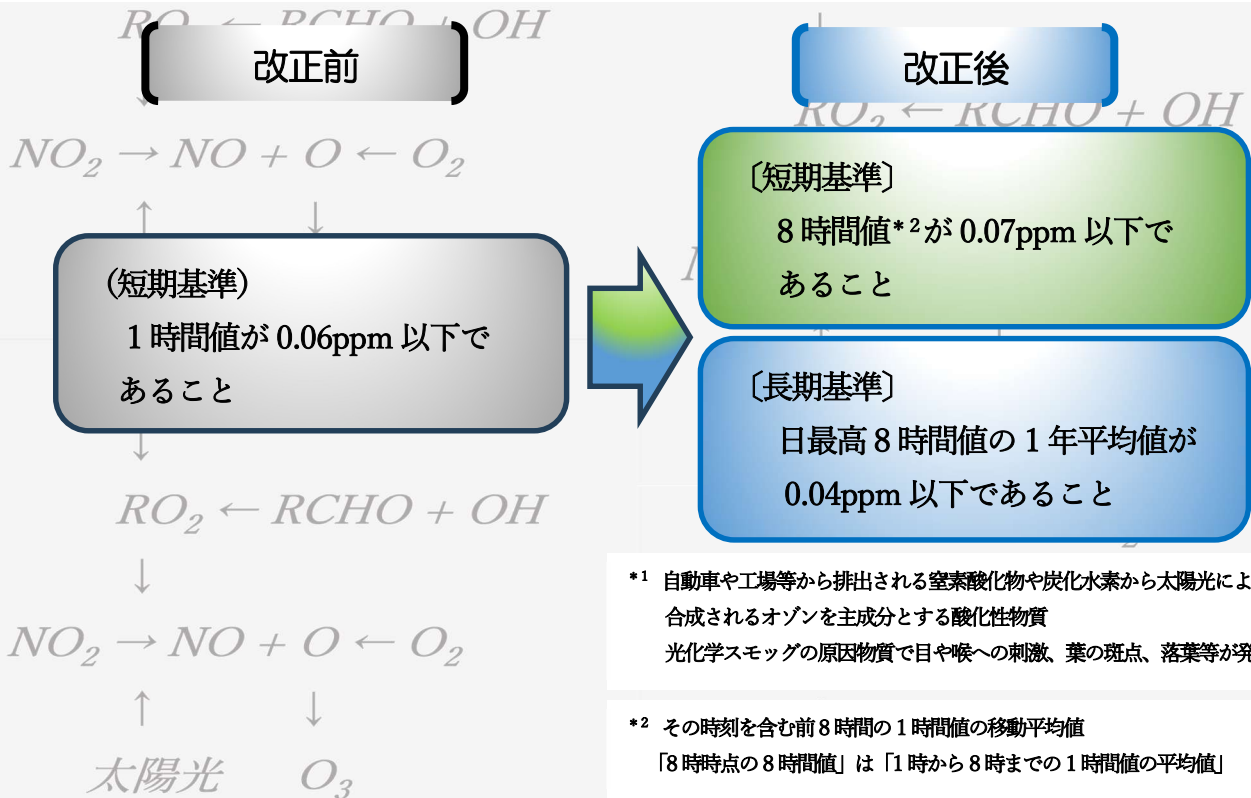
「昔の病気」ではなく、今も注意が必要な病気として、麻しんについて改めて理解を深めることが大切です。

イラスト出典：厚生労働省ホームページ

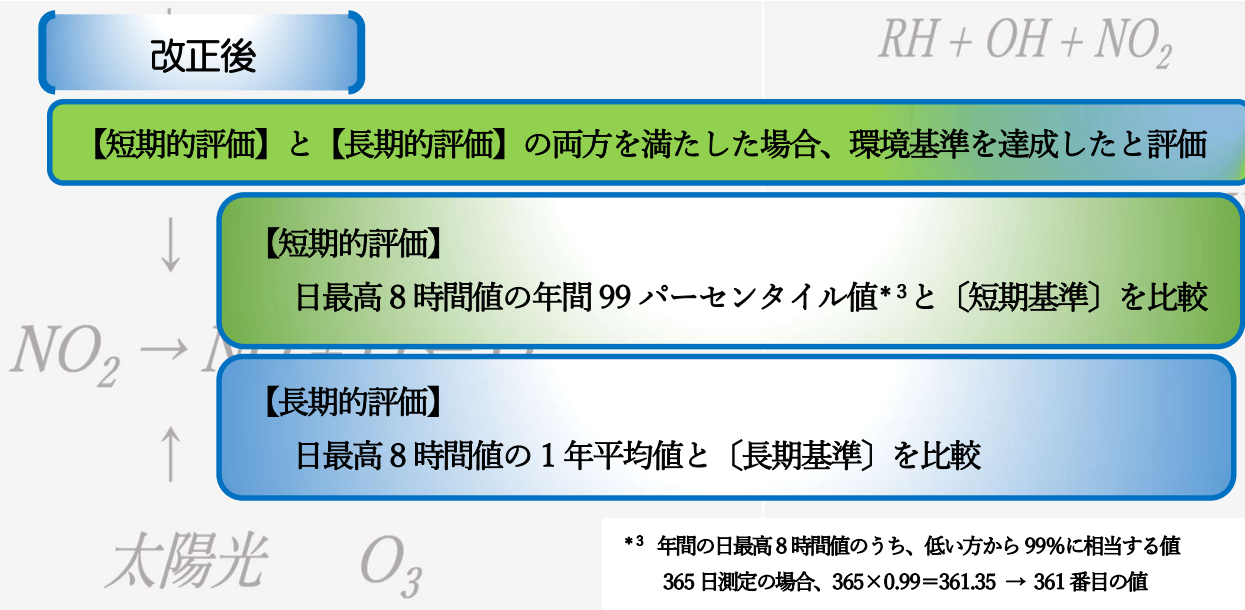
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

大気汚染物質の光化学オキシダントの 環境基準が改正されました

- 健康や植物に悪影響を及ぼす光化学オキシダント*¹の環境基準が改正されました。



- このため、大気汚染状況の常時監視として、県や甲府市が毎日行っている測定結果については、令和 8 年度から改正された環境基準と評価方法で達成の成否を判断していきます。



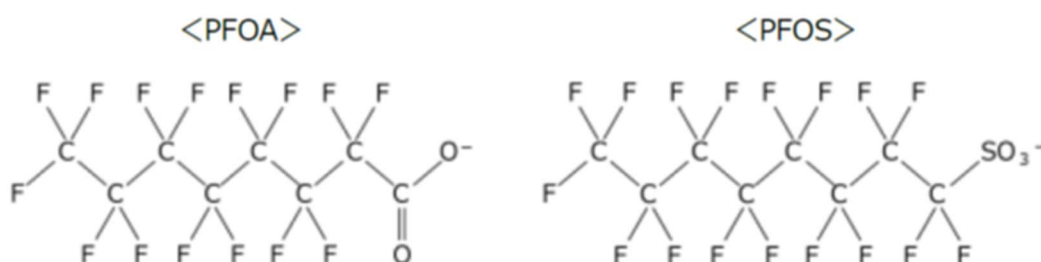
ミネラルウォーターの PFOS・PFOA 検査をはじめました

PFOS PFOA とは？

PFOS（ペルフルオロオクタンサルホン酸）及びPFOA（ペルフルオロオクタン酸）は、PFAS（有機フッ素化合物）の一種です。

独特の性質（水や油をはじく、熱に強い、薬品に強い等）を持つため2000年代初頭まで、様々な製造現場で利用され、身の回りの製品（撥水剤、表面処理剤、コーティング剤等）にも使われてきました。

2009年以降、環境中での残留性や健康影響の懸念から、国際的に規制が進み、現在では多くの国々で製造及び輸入等が原則禁止されています。



飲用水への対応は？

飲用水への対応として、国は、2020 年から PFOS・PFOA を水質管理目標設定項目（水質基準に係る検査に準じて、体系的・組織的な監視によりその検出状況を把握し、水道水質管理上留意すべき項目）に位置付けて、水道事業者等に対して、水道水質基準（ひとの健康を害したり、その飲用に際して支障を生じるものではあってはならないという観点で定められているもの。水道水が適合しなければならない基準）に準じた検査や管理を求めました。

2026 年4月からは、PFOS・PFOA を水道水質基準へ引き上げました。これにより、水道事業者等は、PFOS・PFOA に関する検査・基準遵守の義務が新たに課されています。また、PFOS・PFOA 以外の PFAS については、今のところ有害性に関する科学的知見が十分に得られていませんが、水道水の原水等からも検出されているため、2021 年から PFHxS が、2025 年からはその他 7 種類の PFAS が要検討項目（毒性の評価が定まらないことや、浄水中での存在量が不明の物質等）として位置づけられています。

さらに、ミネラルウォーター類についても、殺菌又は除菌を行うものを対象に、2026 年 4 月から PFOS・PFOA に係る規格基準が 50 ng/L と定められ、規制がかかるようになりました。

これに伴い、山梨県衛生環境研究所でも山梨県食品衛生監視指導計画に基づき収去されたミネラルウォーター類のうち殺菌又は除菌を行うものを対象として 2026 年5月から PFOS・PFOA の検査をはじめました。

今後も検査を積み重ね、県内で製造されたミネラルウォーター類の安全安心の確保に努めていきたいと思ひます。

